

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画  
(案) に関する地区懇談会における意見等について  
(令和3年9月1日以降に寄せられた意見等)

# 目次

1 県全体に共通する考え方に対する意見 . . . . .	1
(1) 実施計画策定の進め方	
ア 策定プロセス. . . . .	1
イ スケジュールの見直し. . . . .	2
ウ 地区懇談会における意見等の反映. . . . .	3
エ 地区懇談会の在り方. . . . .	4
(2) 実施計画(案)全体. . . . .	6
(3) 地域活性化への影響及び地域を支える人財の育成. . . . .	7
(4) 全ての高校に共通して求められる教育環境 . . . . .	8
(5) 各学科の充実 . . . . .	8
(6) 学校規模・配置	
ア 学校規模・配置に対する考え方 . . . . .	8
イ 重点校・拠点校 . . . . .	9
ウ 地域校 . . . . .	9
エ 学級編制の弾力化 . . . . .	10
(7) 通学環境への配慮 . . . . .	10
(8) 魅力ある高校づくり	
ア 全国からの生徒募集の導入 . . . . .	10
イ その他の取組. . . . .	11
(9) その他	
ア 私立高校との関係. . . . .	12
イ 次期実施計画策定に向けた対応. . . . .	12
ウ その他. . . . .	12

2 各地区の学校規模・配置に対する意見 . . . . .	16
(1) 東青地区	
ア 学校規模・配置. . . . .	16
イ 統合に関する事項. . . . .	16
ウ その他. . . . .	18
(2) 西北地区	
ア 学校規模・配置. . . . .	18
イ 統合に関する事項. . . . .	24
ウ その他. . . . .	24
(3) 中南地区	
ア 学校規模・配置. . . . .	27
イ 統合に関する事項. . . . .	27
ウ その他. . . . .	27
(4) 上北地区	
ア 学校規模・配置. . . . .	27
イ 統合に関する事項. . . . .	27
ウ その他. . . . .	27
(5) 下北地区	
ア 学校規模・配置. . . . .	28
イ 統合に関する事項. . . . .	28
ウ その他. . . . .	29
(6) 三八地区	
ア 学校規模・配置. . . . .	32
イ 統合に関する事項. . . . .	32
ウ その他. . . . .	32

# 1 県全体に共通する考え方に対する意見

## (1) 実施計画策定の進め方

### ア 策定プロセス

No	区分	提出された意見等
1	下北③	追加の地区懇談会の開催方法について疑問を感じる。過去の開催状況を考えても、参加者が定員を超えないことは想定される。果たして、むつ・下北地域の多様な意見を聞くことができたのか。1回目の地区懇談会から白紙撤回を求めてきたが、進捗が見られなかったことについて残念に思う。今後、進捗について、しっかりと情報公開されることを期待する。
2	東青③	浪岡高校の存続を求める会の決起集会では、自治体と衆議院議員も全員反対を表明していた。公式に反対を表明したというのは大きなことであり、計画（案）を白紙撤回、そして全面的に見直すべき。
3	東青③	我々青森市議会としては、計画（案）の廃案で全会一致である。
4	東青③	計画（案）については撤回していただき、新たに見直しをしてほしい。
5	下北③	計画（案）の白紙撤回または延期について前向きに考えてほしい。
6	下北③	少子化を考えれば、統合はやむを得ないと考えるが、議論の進め方に問題があったと反省してほしい。地域の理解・合意がなく「教育委員が検討して、このような形になります」と地区懇談会で示され、意見交換といわれてもどうすれば良いのか。「第1期実施計画が終わるから、第2期実施計画を作らないといけない」、「教育委員に考えてもらって、地域に説明しないといけない」など、段取りありきには見え、進め方が古くさい。「パブコメや地区懇談会を開いて地域の意見を聞きました」というやり方なのであれば、「県教育委員会としてはこうします」として、突っ張った方が県教育委員会としても良かったのではないか。その上で責任を持って取り組めば良いだけの話である。今後は、少子化のデメリットを十分説明した上で、県として統合の結論に至ったメリットを説明してほしいし、子どもたちに希望を与えるようなビジョンの提示等、何らかの行動をとってほしい。第2期実施計画にこだわらず、白紙として延期し、地域の合意を得た形での「新・教育改革推進計画」としての策定を求める。この名称であれば、県教育委員会としても5か年という計画期間にとらわれずに済むのではないか。
7	下北③	これまでと同様の進め方を続けても、地域から反対・白紙撤回を求められ、いつまでも計画が決まらない。もっと地域の小さい単位、例えば中高生や社会人とでワークショップを開催するなど、進め方を変えなければならないのではないか。地域が白紙撤回を主張するならば、地域に代替案を求めるか、自分たちで学校を作ることを求めなければこの地域はいつまで経っても変わらない。
8	下北③	各自治体や関係団体から正式に行われた要望や意見については、成案決定の前に報告等をするべき。これをやらなかったため、今までのようにプロセスに対する意見が多いと考える。このままでは同じことを繰り返す結果となるのではないか。
9	その他	市町村が小・中学校を統廃合する際は2～3年かけて地域と協議をするものだが、県教育委員会は7月に計画（案）を公表し、11月に計画決定しようとしている。計画（案）公表から計画決定までわずか4か月しかなく、あまりにも性急である。地区意見交換会を通して地域と議論を重ねてきたと言うが、それはあくまで特定の人たちによる内々の議論であり、私たち地域住民が計画（案）を知ったのは7月7日である。地区意見交換会を実施することで地域と議論を進めてきたというのは論外である。
10	その他	計画がどのような内容になろうとも、地域住民に対する県教育委員会の説明責任を果たすべき。
11	下北③	地区懇談会において、パブリック・コメントや要望書等が出された意見への回答が全くなく、教育委員会会議の中における議論も見えてこないため、意見が本当に通っているのかが分からない。ただ単に参加者に意見を述べさせて終わっている気がしてならないため、地域住民に説明する機会を設けていただきたい。

No	区分	提出された意見等
12	東青③	新聞に計画（案）の公表過程は適正であるという記事があったが、適正イコール県教育委員会の計画（案）に落ち度はなかったと判定を下されるのは大きな疑問がある。我々は反対の意見を述べているので、県教育委員会の考え方と噛み合わないのは当然理解できるが、反対者の数が多く、言葉では表せない人情味あふれる熱い思いがある。参加者の様々な議論を是非聞いてほしい。反対の2文字だけではなく、必ずそこには反対の理由がある。これを真摯に受け止め、その議論の結果をプロセスの中で是非公開すると約束してほしい。
13	下北③	教育委員会会議の議事録により、検討結果を把握できるのが計画の決定後となる可能性がある。そのため、要望書や意見をどのように検討したのか、計画決定の前に住民に伝えるべき。
14	東青③	代議士は民意を代表する方々であり、このような青森県の将来を考えている代表者が牽引していくべき。様々な提案に対して全然聞こうとしない姿勢ではなく、積極的に委員会等を組織して、行政も市民も自由に意見を交えながら県教育委員会も入って議論するような姿勢がなければ到底納得できない。
15	その他	高校教育改革は重要度や注目度が非常に高い。「地域の意見を聞いたのだから、あとは計画の決定をお待ちください」では強引な進め方と批判されるだろう。
16	西北②	高校教育改革は県教育委員会だけでなく、知事部局も一緒になって検討してほしい。
17	西北②	全国的に少子化が進む中、学級減や統廃合は必要だと思うが、県教育委員会が第1期実施計画の策定を強引に進めたように、今回も強引に進めようとしているようにしか思えない。
18	下北③	計画（案）そのものよりもプロセスを無視した進め方に地域住民は怒っているのではないかと。
19	下北③	地区意見交換会の日程を調整するなどし、7月以前のもっと早い時期に計画（案）を公表することは可能だったのではないかと。
20	下北③	この計画（案）の検討は、教育委員等教育関係のムラ社会の中で進められているため、地域住民に問題意識として共有されていない。
21	下北③	下北地区の学校配置における4つのシミュレーションについてはどれもよく考えられた案だと思っているが、意見を聞くと更にブラッシュアップできるものもある。その上でこの4つのシミュレーションを地域住民に説明し、それぞれのメリット・デメリットを検討する場が必要なのではないか。また、今回の計画（案）の発表と決定のスケジュールに関して、地区意見交換会后、7月の公表とその後のスケジュールに問題があったと思う。4つのシミュレーションについてもっと意見を聞くべきではなかったか。今からでも遅くないと思う。いずれの案になるとしても地域住民が納得できるような形で決めてほしい。どの案になったとしてもビジョン、将来の地域の有り様が地域で共有できれば良い。

## イ スケジュールの見直し

No	区分	提出された意見等
22	東青③	今年7月に統合案が示され、11月以降に決めるのは拙速であり、何年かでも良いので猶予がほしい。
23	東青③	計画（案）の根拠として、令和2年度の第1期実施計画の検証報告、さらには改定した基本方針を持ち出して地区懇談会で答弁しているが、これら自体が検証、検討不十分で問題・矛盾が多く、もう少し時間をかけて議論すべき。
24	西北②	もっと地域の意見を聞き、時間を掛けて計画を決めてほしい。
25	西北②	県教育委員会が一方的に計画（案）を通そうとしている感じがする。地域住民が納得のいく答えを探るには、時間が足りないように思う。

No	区分	提出された意見等
26	下北③	下北地区は他地区よりも高校数が少ない分、計画によって子どもたちに与える影響が大きい ため、地域住民と一緒にもっと時間をかけて議論を進める必要がある。
27	下北③	むつ・下北地域の高校教育の将来を左右する最も大事な計画なので、決定までの期限を設定 するのではなく、各界・各層の幅広い意見を参考にして時間をかけ、決定してほしい。
28	下北③	将来のある地域の子どもたちのために、もう少し時間をかけてこの問題を議論・検討するこ とをお願いする。
29	西北②	7月に計画（案）が発表されてから僅か3～4か月の間に計画が決定されてしまうことに強い 憤りを感じる。もう1年この計画（案）を検討する時期を延ばし、地域住民ともっと真摯に 話し合うべきではないか。
30	西北②	計画（案）をじっくり考えるため、計画決定時期の延期を切に求めたい。
31	下北③	現状や将来の課題については誰もが理解できていると感じている。しかし、どうしても県教 育委員会の計画（案）どおりに物事を進めていきたいという説明あるいは基本姿勢に終始して いる感じが否めない。計画年度自体を思い切って見直し、徹底熟議を取り入れる等の決断も必 要なのではないか。
32	下北③	計画の策定に当たっては、ただ見直しを求めるだけではなく、代替案の提示や具体的な検討 を行う必要があった。しかし、計画（案）が7月に公表され時間的余裕がなかったことや、下 北地区における災害対応、新型コロナウイルス感染症に係る業務等、かなり困難な状況にあっ たため、短期間で無理にこの計画を押し通すのではなく、計画の決定時期を下北地区だけでも 先送りしてほしい。
33	下北③	計画の決定を先送りして、地域住民の意見をもっと聞いてほしい。
34	下北③	下北地区については計画決定の先送りをすべき。
35	下北③	住民の意見が反映されたものとしてほしい。そのため、計画決定を先送りすることも検討し てほしい。

### ウ 地区懇談会における意見等の反映

No	区分	提出された意見等
36	東青③	県教育委員会が数合わせではなく、魅力ある高校をつくり上げることでどのような効果をも たらすか議論してほしい。 生徒の部活動に関する声や選抜肢、夢を断ち切るのが県教育委員会なのか。世界に羽ばたこ うとしている子どもたちの夢を吸い上げて、残すのは大人にかかっていると言っても過言では ない。このことを忘れないで結論を出してほしい。
37	下北③	今回の計画が失敗した場合、その影響を受けるのは子どもたちであるため、子どもたちの未 来について十分に議論してほしい。
38	その他	ほとんどの回答が持ち帰って報告するというものであり、県教育委員会としては計画どおり に進めていくことが決まっております、形だけの地区懇談会を開いているように感じた。高校教育 改革によって人生を左右されかねない子どもたち、保護者、地域住民の意見をしっかり取り入 れてほしい。地区懇談会で出された多くの意見の行き先、扱い方が不透明すぎる。
39	下北③	意見書、要望書、地区懇談会の意見が計画にどのように生かされるのか説明してほしい。
40	西北②	地域に来て初めて分かることがあると思うため、計画策定の際は地域をもっと調べ、地域の 様々な人たちの意見を聞いてほしい。
41	西北②	民意を聞く耳を持たなければ、県政は安定しない。三村知事も和嶋教育長も、地域住民の話 を聞いてほしい。

No	区分	提出された意見等
42	西北②	子どもたちの将来に繋がる計画なのに、地域の方や保護者の意見が生かされない計画を押し通す青森県はどうなっているのか。知事は何を考えているのか。これだったら、高校を大切に作る岩手県がとてもうらやましい。
43	西北②	初めから決定ありきで地区懇談会を開催しているのであれば、地域の意見を聞く必要はないのではないか。
44	西北②	結果ありきの地区懇談会は不要である。
45	西北②	西北地区の高校教育がおざなりになるのではないかと懸念している。どうしても決定ありきの地区懇談会としか思えない。
46	下北③	複数回、地区懇談会に参加しているが県教育委員会の回答に誠意を感じられない。時間を設定して会場を借用している費用も税金を使用しているため、もっと有効なお金の使い方をしてほしい。県教育委員会の説明や回答を聞いていると計画（案）ありきで進んでいるように感じる。
47	下北③	報道を見ていると県民の理解が十分に得られているとは到底考えられない。
48	その他	最終的にどのような形で計画が決定されるか分からないが、仮に木造高校の1学級減が見直されず、1学級減の理由がこれまでと同様であったならば、県教育委員会と地域住民の考えはいつまでも平行線をたどることとなる。そうなった場合、あらゆる手段を講じて、計画を差し止めすることを考えていきたい。
49	下北③	人口減少による学校の統廃合は理解できる。大切なのは教育効果を維持・向上させることだと思う。よって、地区住民にも現状を直視してもらい、どのような方法があるのかを募っても良いのではないかと。大事なものは、批判ではなく建設的な意見ではないか。

## エ 地区懇談会の在り方

No	区分	提出された意見等
50	東青③	地区懇談会へ地域を担っている知事部局関係者に出席してもらい、県内全体を俯瞰し地域の発展を意識した上で、高校の配置や高校を中心としたコミュニティ・スクールなど、地域の発展に向けた教育環境の整備を通して、地域を健全に発展できる位置付けが見えてくると考える。
51	東青③	県教育委員会だけではなく、地区懇談会に知事部局の方も参加し、県の総合的な視点で運営した方が良い。地区懇談会の議論が、どちらかという浪岡高校存続のためとなっている。本当に魅力ある青森県を作り上げ、県の人口を増やす基盤となるのが教育投資や環境整備と考えており、総合的な県の発展のためにも知事部局と一体となった場で、改めて全県的に見直した方が良い。
52	東青③	このような大事な地域の問題、市の問題、経済の問題は、教育委員が地区懇談会に出席し、地域の生の声を聞かなければ伝わらない。浪岡地域で「このような発言があった」と伝えて終わってしまう。やはり生の声を、切実な声を教育委員に聞いてほしい。
53	東青③	教育委員と直接話したかった。
54	東青③	地区懇談会に事務方だけでなく教育委員にも出席してほしい。
55	西北②	教育委員に地区懇談会に出席してもらい、地域住民の思いや熱量を感じてほしい。
56	西北②	県教育委員会の責任のある人が地区懇談会に出席してほしい。
57	下北③	必要なのは「意見を伺う場」ではなく「議論の場」である。事務局に決定権がないならば、決定権を有する方と議論する場を設定すべき。反対意見、疑問、不安が多い中、地元の協力、連携が可能と思っているのか。

No	区分	提出された意見等
58	西北②	もう一度地区懇談会を開催し、持ち帰って検討した内容を説明してもらわないと納得できない。第3回西北地区懇談会の開催を約束した上で、我々の質問や意見を聞いてほしい。
59	西北②	議論の結果を地域住民は知りたいため、是非とも第3回目の西北地区懇談会を開催し、説明してほしい。
60	西北②	我々の意見について教育委員がどのように考えたのかを、我々が計画決定の前に聞く権利は絶対ある。ただ意見だけを聞き、我々が納得のいく回答をしないまま計画決定するプロセスはいかがなものか。もう一度地区懇談会を開催し、地域住民をある程度納得させてから計画を決定すべき。
61	西北②	県教育委員会の説明は不十分である。持ち帰って教育委員会会議を開催し、検討すると言った部分や多く出された要望等については、3回目の西北地区懇談会を開催し、対応を説明すべき。
62	西北②	意見、提案等に対する回答を聞ける場がほしい。第3回地区懇談会を開催してほしい。
63	下北③	中学生の進路選択への影響があることは重々承知しているが、意見が出尽くしたかどうかは疑問であり、今回で地区懇談会を最後とすることは地域の実情への配慮に欠けている。
64	下北③	知事や県教育長が発言しているとおり、優しく丁寧に説明し、十分に住民の理解を得たいというのであれば、今後も地区懇談会等を開催してほしい。
65	下北③	追加の地区懇談会における意見に対する県教育委員会の回答を新聞に掲載してほしい。3回の地区懇談会では同意できない。再度、地区懇談会を開催してほしい。
66	下北③	これまでの地区懇談会と同様の形式で何度実施したとしても、県教育委員会の決定プロセスの見直しや地域の意見を勘案する姿勢等が変わらなければ意味がない。相変わらず県教育委員会の都合や事情を最優先しているように見える検討・対応は、非常に残念である。
67	西北②	県教育委員会の回答は理解できない。このまま県教育委員会の意見が通るのであれば、地区懇談会は不要である。
68	東青③	地区懇談会の出席者が、高齢もしくは卒業した子どもを持つ親の年代層が中心となっている。本来であれば、これから入学する子どもの親たちが、出席すべきと考える。あまり関心がないのか、浪岡高校に興味がないのか他人事のように考えているとしか感じない。本当に浪岡高校の存続が必要なのか疑問である。バドミントンのために必要ならその子たちや親が出席し直接訴えてほしい。
69	東青③	これまでの経緯を鑑みると、あまりに拙速である。地域の意見を聞いているというものの、地区懇談会における県教育委員会の回答はあくまでも計画（案）に添った内容から抜き取ったものとなっている。
70	西北②	追加の地区懇談会の参加方法が、ウェブ上での申請が前提となっているなど、幅広い意見を聞くとしながら、参加方法が自由参加でないのは疑問に思う。
71	西北②	県教育委員会の説明が不十分であるため、地区懇談会の参加者がきちんと理解出来ていないということを質疑応答を聞いて強く感じた。
72	下北③	誰のための地区懇談会なのかが分からない。これから下北を作り上げていく子どもたちのために、下北の教育をどうするか考えるべき。
73	下北③	少子化の影響はある程度把握していたため、計画（案）については理解できる。質問者が計画（案）以前のことにについて説明を求めていたため、質問者の資質に疑問を感じる。統合案についての良し悪し、効果の有無についての討議がなされることを期待したが、全く無駄な討議であった。
74	下北③	追加の地区懇談会では、地域の方々の意見を伺っているとは思えなかった。



No	区分	提出された意見等
75	下北③	3回目の地区懇談会も1、2回目の地区懇談会と何ら変わらない意見が繰り返された。「ではどうしたいのか」を伝えずプロセスが問題と言い続けることは不毛である。地域全体や経済のために県立高校があるのではない。どういう学校を作っていくのかは、今後、話し合いで考えていくべきなのに混同している。年配の人たちが、今までの経験の中からの判断で、「地域」を振りかざしながら、反対しているように思えてならない。何回繰り返しても、対応する県教育委員会の方々が消耗していきただけで申し訳なく思う。もう十分かと思う。丁寧に話を聞いていただけたと思っている。
76	下北③	地域の意見がどのように反映されたのか。具体的な変更点が示されなければ、県民の理解を得ることは難しい。県民からの意見を反映した実施計画（最終案）をもう一度、議論のテーブル（地区懇談会やパブリック・コメント）に上げてほしい。
77	下北③	今回の地区懇談会の追加開催があまり意味のないものであったと感じる。各地からこれほど意見が上がっているが、教育委員の方々にそれら全てが伝わっているのか、甚だ疑問である。
78	東青③	地区懇談会で一番残念だったのは、「意見を教育委員に伝える」という回答である。もちろん事務方だから限界はあると思うが、それでも教育委員に地区懇談会に参加してもらうなど方法は様々ある。是非、我々の真意を教育委員にきちんと伝えてほしい。
79	下北③	追加の地区懇談会の意見についても速報で教育委員に報告する際、1字1句そのまま公表・報告すべき。
80	その他	つがる市から高校を無くすことがどういう事態を招くのか、教育委員にもしつかり伝えてほしい。

## (2) 実施計画（案）全体

No	区分	提出された意見等
81	東青③	県教育委員会の説明は教育に携わる者の話ではなく、会社経営者の支店、支社統廃合の説明会にしか聞こえない。人間・子どもを育てるためには、公費を投入し、将来への投資をするという思いが必要である。適切な投資ができる会社は成長するが、現状を見ているだけで、縮小してその場をやり過ごしている会社は潰れていく。県教育委員会と県理事者の責任は、今よりも将来を見ることだと痛感した。これが県の方針であれば青森県に未来はない。
82	西北②	本計画（案）は国の制度改正に逆行している。
83	下北③	計画（案）には、将来どのようにありたいか、地域とともにどのような教育環境を作り上げていくのかといったビジョンが圧倒的に欠けている。ビジョンが定められ、共有された状態で方針や計画が作られるからこそ手続きは進んでいくのであり、そのための時間配分がきちんとされていなければ、どの計画も失敗に終わることとなる。
84	下北③	日本の将来を背負って立つ子どもたちに、多様な集団の中で力強く生きていくための術を身に付けさせる時間を保障することが学校教育の中で求められている。
85	下北③	現時点で計画（案）が変更されることはないと思っている。生徒の学習環境を最良とするよう最大の努力をしていただきたい。
86	その他	学校の統廃合について、ある程度の教育環境を維持するためにはやむを得ない。住民が子どもたちのため、地域のためにできることはとても限られており、高校教育改革推進計画が子どもたちの希望となり、明るい未来を描ける計画となることを願っている。

### (3) 地域活性化への影響及び地域を支える人財の育成

No	区分	提出された意見等
87	東青③	浪岡地域のイベントや祭りに浪岡高校の大勢の生徒に何年も参画していただいている。その要になるのは、若い人たちの集う環境であり、そのような高校を閉校することは、地域経済を分断することになるため、地区懇談会がガス抜きであってはならない。その点を御理解いただき県教育委員会において浪岡高校の存続に向けた案を検討してほしい。
88	東青③	浪岡高校が無くなることによる地域への影響が心配である。
89	西北②	人口減少が進む中、県立高校は地域のために必ず残すと頑張っている県もあると聞く。子どもが減ったから高校を潰すのではなく、地域のために高校を残してほしい。そして、つがる市に1つしかない高校を何とか維持してほしい。
90	西北②	県議会で三村知事が、「高校教育改革については県教育委員会の仕事である」という答弁をしていたが、違うのではないか。つがる市は人口減少に伴い総合戦略を立て、人口ビジョンを策定しており、地元の木造高校も人口減少の推計のポイントとになっている中で、このように勝手に木造高校の学級減をされると、ますます地元が疲弊していく。知事がそれで良いと言うのなら、つがる市も徹底的に抗戦する。
91	その他	木造高校の学校生活は西北地区、木造地域と地域密着であり、西北地区の経済、商業の活性化にもつながっている。高校教育改革にとどまらず、木造高校の学級減はつがる市の衰退にも関わる重要な事案である。
92	西北②	地域に高校が無くなってしまふ流れになりそうなので、木造高校の学級減に反対したい。高校が無くなると地域が廃れてしまう。それだけ大きい存在の木造高校を無くさないでほしい。
93	その他	五所川原市が発展すれば西北地区が発展するという考えはあってはならないし、つがる市から高校がなくなるといふこともあってはならない。
94	下北③	効率を求めた統合案で、地域住民の暮らしは二の次という感じがする。下北の各地域では、人口減少の中でも、住みやすいまちづくりを進めていることから、効率を多少度外視しても、地域の維持へ舵を切っている。そのような気持ちを持つ人たちにとって、この統合案はとても飲み込めるものではない。もっと地域のことを考えているという意志が感じられる計画(案)にしてほしい。このままでは、脇野沢、川内地域の人口減少に拍車がかかってしまう。
95	西北②	地元の高校の学級減は、制服、学用品、部活用品等を取扱う商店にとっては直接的な打撃となる。県教育委員会から、人財の育成に力を入れると説明があったが、我々は地域から若者の姿が減っていくことで地域の活力が失われるという危機感を感じている。全国でコロナ禍のダメージから立ち上がって経済を再生していこうというときに、このような計画(案)が提示されること自体、理解に苦しむところであり、計画(案)の再考、先送り、願わくば白紙撤回を求める。
96	その他	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域の商店街等は本当に大変な思いをしている。木造高校の学級減が地域経済にどれほど影響するのか試算しても良いのではないか。なぜこの大変な状況下で早急に学級減を決定しなければならないのか。
97	東青③	計画(案)は納得できない。教育環境とまちづくりは一体でなければならない。県と市の連携が不可欠である。

No	区分	提出された意見等
98	西北②	各自治体の人口減少対策と調和を取っていただきたい。
99	西北②	この計画（案）は、他の都道府県の考え方を安易に取り入れたものではないか。本県の人口減少という実情に合った形となっていない。島根県では人口減少が続く中、県が高校を守るといふ姿勢となっている。なぜ島根県と同様に人口減少している本県は、ただ数合わせの県教育委員会の型に合わせた、理屈ばかりでつじつまの合わない、苦しまぎれの説明をせざるを得ない高校教育改革しかできないのか。方針を変えなければ、人口減少は加速するばかりである。
100	その他	子どもたちが進みたいと思う学校があり、そこで夢を叶えられてこそ生きる施策もあるものと考え。市町村が人口減少対策等の施策へ取り組んでいるにもかかわらず、県教育委員会が学校の魅力を、ひいてはその存在を無くすような計画を推し進めてはいけない。

#### (4) 全ての高校に共通して求められる教育環境

特になし

#### (5) 各学科の充実

特になし

#### (6) 学校規模・配置

##### ア 学校規模・配置に対する考え方

No	区分	提出された意見等
101	東青③	教育環境の発想を変えることで、多様な形に教育の在り方が変わっていくものと考え。地区懇談会の配布資料では、ICTの今後の活用が記述されていない。今後変化していく教育環境の中で、少人数としつつ、少なくとも2学級程度は維持しながら高校を維持し、学校経営にかかるコストを抑える手法を取り入れることで、新たな時代の教育の在り方とすることができないか検討してほしい。
102	西北②	学校配置について、地域バランスを考慮しておらず、偏りがあることに納得いかない。
103	西北②	とにかく学級数の削減が先にあるように思われる。
104	西北②	少子化が進行しているため、高校再編については理解するが、一部の高校のみを標的にした計画（案）については疑問である。
105	西北②	基本となる学校規模の標準と重点校の学校規模の標準のどちらを優先するのか。
106	西北②	重点校、拠点校、総合学科といった概念はもう要らないのではないか。
107	西北②	鱒ヶ沢高校、浪岡高校、大間高校等、過疎地で生徒が少ない高校を重点的に支えていくのが教育ではないか。
108	東青③	浪岡高校と野辺地高校は、入学者数の傾向はほぼ同じとなっている。むしろ地元中学校の割合や入学者数からすると、浪岡中学校卒業生の浪岡高校の進学者が増えていて、野辺地高校は減っている。よって、浪岡高校も野辺地高校と同様に普通高校として存続させるのが当然ではないか。しかも、交通環境も野辺地町と浪岡地域は似通っている。このような中で一方が存続し、もう一方が統合されるのは納得できない。

## イ 重点校・拠点校

No	区分	提出された意見等
109	西北②	重点校の設置は良くない。生徒間・教師間にも格差観・差別観を植えつけてしまう。
110	西北②	重点校を3市3校のみにすることを検討してほしい。
111	西北②	西北、下北、上北地区において、5～6学級規模の重点校が配置できるのか。果たして必要なのか。また、農業科、商業科、工業科において、拠点校を配置してどうするのか。五所川原農林高校と柏木農業高校、三本木農業高校と名久井農業高校との連携の説明があったが、これまでも横のつながりはあったのではないか。その点において、拠点校は本当に必要なのか。

## ウ 地域校

No	区分	提出された意見等
112	東青③	地域校制度そのものをやめるべき。

### 【青森県立高等学校地域校の基本方針に係る猶予期間の設定を求める要望書】

(令和3年10月29日付 鱒ヶ沢町長 外3名)

青森県教育委員会では、令和5年度からの青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画において鱒ヶ沢高等学校、大間高等学校、三戸高等学校、六ヶ所高等学校を地域校とする案を示しています。

また、地域校の学級減及び募集停止となる条件として、2年継続して一定の基準を下回る場合という基本方針に定める基準も併せて示しています。

上記4校立地町村では、地元の高校の将来にわたる存続は、地域の次代を担う若者の人材育成及び地域振興の面からも最重要課題であるとの位置づけのもと、現在、それぞれの自治体が近隣町村との広域連携も含めて、独自に当該校に対する支援を行っているところであります。また、青森県教育委員会から提案されている地域校配置後の地域校活性化協議会による学校の魅力化推進、全国募集等についても積極的に関わり、事業を推進していくこととしています。

このような状況にあって、地域校立地町村連絡協議会に所属する4町村長の一致した見解は、全国募集及び地域校活性化協議会については、県教育委員会より提案があった事業であり、それらの事業に取り組んだ場合、2年間で結果を出すのは非常に困難であるとともに、取り組みを検証し課題を解決しながら成果を出すためにも、第2期計画の5年間については、猶予期間は必要であるということでもあります。

よって、以上のことから地域校の学級減及び募集停止の基本方針について猶予期間の設定をお願いしたく要望いたします。

- 一 基本方針には①入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級とする。②募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合、基準に該当した翌年度の募集停止を基本とし、当該高校の所在する市町村等が通学困難となる生徒の通学等について協議するとあるが、それぞれ第2期計画内において全国募集又は地域校活性化協議会を設置し、地域校の活性化の取り組みを実施する地域校については、対象外としていただきたく要望します。

## 工 学級編制の弾力化

No	区分	提出された意見等
113	西北②	1学級35人編制の導入を検討する必要がある。
114	西北②	ただ単に学級減とするのではなく、1学級40人編制から35人編制にするなど違うやり方があるのではないか。
115	西北②	35人学級編制については、法律により生徒数に応じて教職員数が決められているため、生徒数の減少により教職員数も減少してしまうとのことだが、臨時講師や非常勤講師を、県費負担で増やすことを提案する。
116	西北②	1学年当たり1学級20人以下の高校が存在しても良いという考えを持ってないか。高校を無くさない方針で進めてほしい。
117	西北②	文部科学省に学級編制基準及び教職員定数の見直しを要望したことは評価する。
118	西北②	西北地区全ての高校で1学級35人編制などにすることはできないか。
119	その他	少子化が見て取れる西北地区は、高校も1学級35人編制とするなど、学級編制を変えていくべき。
120	その他	現在、高校は1学級40人編制としているが、予算をかけて1学級35人編制を拡充できないものか。五所川原工科高校や三本木農業恵拓高校の普通科のように、35人学級編制による手厚い教育を拡充していくべき。
121	西北②	五所川原高校を1学級35人編制の重点校とすれば良いのではないか。
122	西北②	1学級35人編制の対象を拡充し、重点校の五所川原高校を35人編制6学級、木造高校を35人編制4学級にするという柔軟な考え方はできないのか。

### (7) 通学環境への配慮

No	区分	提出された意見等
123	下北③	遠方から通学する生徒に対し、スクールバスや路線バスへの補助が必要と考える。交通格差が生じている。住んでいる地域によって負担が多いのは不公平であり、経済的な負担を軽減したい。

### (8) 魅力ある高校づくり

#### ア 全国からの生徒募集の導入

No	区分	提出された意見等
124	東青③	限定した高校のみ全国からの生徒募集の対象とするのではなく、秋田県等のように、全ての高校を対象とすべき。その上で再度計画を練り上げるべき。
125	東青③	県教育委員会が掲げる全国からの生徒募集は、生徒数が少ないから穴埋めのために実施する考え方で一貫している。これは、各高校の生徒や関係者、県外生徒やその保護者にとっても、甚だ失礼な考え方ではないか。本来は、良い教育、良い学校で自慢できる学校だから来てほしいと、自信を持っている学校を候補校にすべき。
126	東青③	定員充足率90%といった考え方を変え、例えば青森西高校や学級減が予定されている木造高校なども全国からの生徒募集の対象にしても良いのではないか。
127	東青③	全国からの生徒募集の導入校として、浪岡高校は候補として適している。

No	区分	提出された意見等
128	東青③	浪岡高校は、現在全国からの生徒募集を導入していないにもかかわらず、既に20人弱の生徒が県外から来ている。これらの生徒は、第2の故郷として、将来浪岡地域や青森県内に定着することも考えられると地区懇談会の参加者から実例として挙げられたが、このことは、人口減少が進む本県にとって大変ありがたい話であり、県内移住者を募るための非常に有効な手立てである。このことも含めて浪岡高校に全国からの生徒募集を導入し、その状況を何年間か確認した上で、改めて統合を検討しても良いのではないかと。
129	東青③	浪岡高校のように1学級や2学級でも、優れた教育や部活動、そして地域密着活動をしている学校は少なくない。浪岡高校を維持し、教員配置や教科の設定等の教育内容の充実を図って、全国からの生徒募集導入校のモデル校にしたら良いのではないかと。
130	東青③	県の方針はあるにせよ、全国からの生徒募集を導入するためには、県から支援を考えてほしいといったことも議論の遡上に挙げてほしい。また、浪岡高校は候補校の遡上にも上がっていないが、県外生徒の受入体制を整備するという姿勢を示していることも、改めて申し添えたい。
131	東青③	青森市長も浪岡高校を残すために真剣に予算計上しているところであり、浪岡高校には全国からの生徒募集を導入するのが良い。将来的には浪岡地域に移住し、地域と一緒に明るい浪岡地域、住みたくなる浪岡地域を作ってほしい。県教育委員会では再度、浪岡地域を存続するための方策を議論してほしい。
132	東青③	浪岡高校を選んで県外から20人以上の生徒が来ている。このように可能性や魅力のある浪岡高校にチャンスをいただけないかとの思いで青森市として県外生徒を受け入れるための体制づくりの予算を用意させてもらった。全国からの生徒募集について、東青地区だけ候補校がない。県内6地区のバランスを取ることも県の責務としてあると考えられるため、是非、教育委員会会議で議論してほしい。
133	東青③	他県に全国で強豪校と言われる中高一貫教育校があり、地域の教育構想の中で生徒を募集して、サッカー、ゴルフ、バドミントンを強化策に挙げ、グローバルな社会に向けて世界へ出ていく人材を育成している。2年前に新校舎とバドミントンコート10面の新体育館が建ち、新しい中高一貫教育校として開校し、全国で活躍している学校になっている。 逆転の発想ではないか。東日本大震災のため高校に戻ってきたい希望者が10%もいない中、新校舎を建て、新しい形で同じ活動をしたのである。浪岡高校においては、バドミントンにより県外から入学を希望する生徒が10%以上はいるものと考えており、このことを考慮して、今後の検討材料にしてほしい。
134	下北③	大湊高校に、スポーツに関する系列や国防に特化した系列を設置し、全国からの生徒募集を導入するなどの方策が考えられる。
135	下北③	大間高校が全国からの生徒募集の候補校に指定されているが、誰が考えても生徒は集まらないと思う。

## イ その他の取組

No	区分	提出された意見等
136	東青③	コミュニティ・スクールを同じ地域にある小・中学校だけでなく、高校も一緒になって導入し、地域住民と一緒に協力して、浪岡高校の魅力を広く知らせていきたい。当然浪岡高校教員の協力も必要になる。また、市教育委員会と県教育委員会が協力してほしい。
137	その他	教育活動の充実を謳って統廃合や学級減ばかり進めるのではなく、ICTを活用したりモータ授業による教育活動の充実についても検討するなど、学級数を維持できない理由ばかり探すのではなくしっかり検討してほしい。

## (9) その他

### ア 私立高校との関係

No	区分	提出された意見等
138	西北②	下北地区に次いで人口の少ない西北地区に私立高校が2校あるが、私立高校、県立高校の区別なく、お互いが人口減少に対する応分を負担することが大事である。私立高校には建学の精神があるかもしれないが、私立高校と県立高校が一体になって責任を果たすことが重要である。
139	西北②	西北地区において5年間で中学校卒業生数が161人減少することは分かっているが、募集人員を多くしておけば、現在、私立高校を志望している層の中学生が入学するのではないかと。

### イ 次期実施計画策定に向けた対応

特になし

### ウ その他

No	区分	提出された意見等
140	東青③	来年度、子どもが高校受検を控えているので、正しい情報がいつ頃分かるのか示してほしい。
141	下北③	特色あるきめ細やかな教育を実施するために、専門性を持った教員の加配を要望する。青森県だからこそ、教員数を増加し、活力ある地域を作るべき。
142	西北②	1学級減(案)発表による高校への影響、例えば1学級減や閉校の話が出ると倍率が下がることなどを配慮してほしい。
143	下北③	ホームページで計画(案)等を公表したからと言って、情報が確実に行きわたるとは限らないことを心してほしい。
144	下北③	少子化による高校教育改革の推進が目的だと思うが、子どもたちを増やす対策を県や市はもちろん、政府にもっと考えてほしい。このままだと中国に台湾も日本も奪われてしまう。まずは人口増の対策を早めに進めてほしい。
145	下北③	県教育委員会も学校内だけでなく企業へ出て研修するなど、民間での計画・ビジョン策定等について勉強した方がよい。
146	下北③	高校教育改革より先に、県教育委員会の意識、業務改革が必要である。
147	下北③	子どもたちのことを知らない県教育委員会が、子どもたちの選択の幅を狭めないでほしい。高校の数を減らす前にしっかり仕事をしてほしい。

## 【青森県立浪岡高等学校存続等を求める要望書】

(令和3年10月21日付 青森県議会議員 鹿内 博 外2名)

青森県教育委員会教育長はじめ教育委員の皆様には、本県教育振興にご尽力されていることに心から敬意を表します。私たちは、これまで県立高等学校教育改革は、教育振興並びに県政の最重要課題の一つと認識し、県議会で議論して参りました。特に、先の第307回県議会定例会では、第2期実施計画（案）を中心に、一般質問、決算特別委員会で行き上げる質疑を行って参りました。また、同計画（案）に関する地区懇談会に参加するなど関係者の意見を聞き、県教育委員会の見解と対応を伺って参りました。

しかしながら、現時点において、同計画（案）に同意できるとは言い難く、むしろ多くの疑問、問題点、矛盾を指摘せざるを得ず、地区懇談会の状況を見ても関係住民の理解を得たとは到底認められません。

それにもかかわらず、県教育委員会は今後、地区懇談会の実施を予定せず、教育委員会議を複数回開催して11月以降に同計画（案）の取り扱いを決定するとのスケジュールは、県議会の議論も不十分なまま同計画（案）を見切り発車的に決定する懸念を持たざるを得ません。

については、同計画（案）を見切り発車的に決定するのではなく、さらに議論と検討を重ね、真に関係者の理解と協力が得られる県立高等学校教育改革の内容とするよう、県教育委員会議で下記事項について検討し、実現されるよう要望いたします。

### 記

(1) 青森県立浪岡高等学校の存続及び同校を全国募集導入候補校とすること。

(主な理由)

- ①浪岡高校は、全国的評価の高いバドミントン部や日本音楽部、空き缶壁画制作活動、浪岡北畠まつりへの参加などの活動は、同校の教育内容が豊かで人材育成に大きな成果を上げ、地域に貢献している証であり、将来においても同校の存続は必要です。
- ②第2期実施計画（案）では、野辺地高校が1学級の普通校として存続することになっているが、浪岡高校は野辺地高校と同程度の入学者数で、むしろ最近では地元から浪岡高校への入学者が増えているのに、統合されるのは不公平であり、不平等な扱いで、再検討すべきです。
- ③第1期実施計画期間中での上北地区の統合で野辺地高校に与える影響は少なく、むしろ浪岡中学校からの入学者が多かった黒石商業が閉校となり、浪岡地区の中学卒業生に大きな影響を与えていることから、野辺地高校同様に浪岡高校を1学級の普通校として存続させるべきであるにもかかわらず、浪岡高校だけを統合するのでは、計画案は、整合性と一貫性がかけており、再検討すべきです。
- ④浪岡高校には、既に県外から、バドミントン部活動を希望して浪岡中学へ入学し、浪岡高校に進学する生徒も多く、部活動を指導、支援する体制も整っており、全国募集の実績があり、更に増える可能性が大きく、検討すべきです。



(2) 第2期実施計画(案)を白紙撤回すること。

(主な理由)

- ①浪岡高校統合案に反対の声が強くなるように、大湊高校とむつ工業高校統合案や木造高校学級減案に関係自治体等から反対の声も強く、これを無視して計画を決定すべきではありません。
- ②野辺地高校を普通校として1学級存続する考え方には賛同するが、同様の考え方で地域校とされる鱒ヶ沢高校、三戸高校も普通校として存続させなければ一貫性が問われます。第1期実施計画で大きな影響が生ずるのは、上北地区だけではなく、他地域も同様でありながら異なった扱いをしては、関係者の理解は得られず再検討する必要があります。
- ③県教育委員会が理想とする学校規模の標準を「1学級40人、1学年4学級」であるとの説明に地区意見交換会や地区懇談会で多くの疑問や見直しの意見が出されているにもかかわらず、その考え方と進め方に固執し、学級を減らし、地域から高校をなくしてきたことに関係者は不安を持っていることから、この「標準」を再検討する必要があります。
- ④1学級40人を基準とする法律が改正され、自治体の事情と判断が尊重され、小規模校でも優れた教育活動している学校も多く、4学級以下の県立高校も増えていることから、少人数学級、小規模校の良さをいかすことを高校教育改革の基本的方向とするよう検討すべきです。
- ⑤地域校の基準緩和を求める要望が関係自治体等から出されているにもかかわらず、これを見直しせず、計画案では更に2校増やすのは説得力がありません。地域校は、これまで田子高校などが閉校となり、地域校制度は、将来に不安を持たれることから廃止し、新たな方策を検討する必要があります。
- ⑥一方で、地域校を全国募集導入候補校とするのでは、関係自治体からの協力、支援も限定的で、数年後に閉校となる不安のある高校に、県外から入学を希望する生徒数をどれ程期待できるか、矛盾した取り組みであり、定員充足率が5年平均90%以下の学校を候補校とすることも含めて、全国募集の制度設計を再検討する必要があります。
- ⑦全国募集導入にあたっては、県教育委員会としての教育的意図や目的などビジョンを明確にし、併せて導入校及び関係自治体に対する施設、人事、財政等の優遇措置も知事部局と協議し示すべきで、検討する必要があります。
- ⑧全国募集導入校は、生徒数が不足しているからとの数合わせではなく、教育の内容と質の向上を図り、希望者が幅広く進学先を選択できるような候補校とするよう再検討する必要があります。
- ⑨地域社会における県立高等学校の役割、及び、地域社会が生徒の向上発達に果たす役割は多岐多様であり、学校教育、社会教育、家庭教育とのかかわりも重要でありながら、これらに関する検討が不十分であり、再検討する必要があります。
- ⑩本計画案が1学級40人、1学年4学級に固執する理由の一つに、教員定数に係る法律、制度が考えられ、その影響を人口の少ない地域の児童生徒が受け、学級が減らされる学校が閉校になるなど、教育環境の後退を招いていることは否定できず、この責任は児童生徒ではなく、教育行政のあり方にあります。県教育委員会として、本県独自の少人数学級と小規模校推進のための教職員配置及び予算化について知事と協議するように検討すべきです。

(3) 少子化時代に対応できる新たな県立高等学校教育将来ビジョン策定の検討を行うこと。

(主な理由)

- ①第2期実施計画案の基本は、平成27年度の「県立高等学校将来構想」答申ですが、改革を口実に学級を減らし、地域から学校をなくしてきました。同計画案に対する反対の声が多いことから明らかのように、今後もこれをすすめることは不可能であり、平成27年度答申に代わる新たな取り組みが必要です。
- ②生徒にとって必要な教育環境は、県教育委員会が標準とする「1学級40人、1学年4学級」を維持するだけではありません。情報化、少子化、国際化の時代に対応できる一人一人の個性と多様性をいかし伸ばす本県高校教育のあり方を、県民参加を得ながら、新たな青森県立高等学校等学校教育将来ビジョンを策定すべく検討する必要があります。
- ③本計画を令和3年度に決定しても、全国募集導入は令和5年度であり、4校の統合は、令和10年度開校予定であることから、決定を1から2年延期し、その間は、第1期実施計画の内容で進めても問題ありません。反対、疑問、矛盾のある計画案に固執するよりも未来志向で新たな将来ビジョン策定を目指すことが、本県高等学校教育の振興と児童生徒の健やかな発達向上に必要な重要かつ重要な考えます。

## 【「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）」に対する要望書】

（令和3年10月29日付 青森県議会議員 川村 悟 外2名）

青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針（改定案）については、令和2年6月3日に公表され、その後6月4日から7月3日までパブリックコメントを実施するとともに、県内6地区6会場で地区懇談会が開催され、広く県民の意見を聴取し、令和2年8月5日に改定・公表されたところです。

そして、第2期実施計画（案）については、令和2年8月5日に改定された基本方針や国の制度改正等を踏まえた計画であり、地区意見交換会を通じて、具体的な取り組みを取りまとめたものと受け止めています。

しかし、本年7月7日に公表された「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）」について、関係する地域での懇談会が開催されましたが、どの懇談会においても懇談予定時間を大幅に超過するなど、計画実施に当たって地元自治体や経済団体から多くの意見要望が出されたところです。

教育環境や地域の発展については、私たち大人が子供たちの将来を考え、責任を持った対応が求められていると思います。県としてこれまでの懇談会等を通じて出されている地域の声を真摯に受け止め、実施計画に生かしていただきたいと思います。

- 1 昨年、県内有識者で構成された「青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針検証会議」における評価・意見を確実に第2期実施計画に反映すること。
- 2 全国募集については、地域校4校と過去5年間の定員充足率が9割以下となっている4校の8校が候補校となりますが、教育環境や生活環境で、地域自治体から出されている要望等に対し、県として十分対応すること。特に浪岡高校については、これまでの取り組みと実績を考えれば、県外生徒の入学が十分に見込まれる状況だと思っておりますので、存続し、全国募集の導入校とすること。
- 3 地区懇談会で、県教育委員会としては、望ましい学級数について4学級とし、そのことが教員の配置数や生徒の学びの環境に大きく影響するといった答弁をされていますが、コロナ禍による教育環境の変化も大きなものがあります。特に、ICTを利用した環境については、今後国としても強力に進めていくことから、小規模高校にも一層、ICT環境の整備・推進を図ること。
- 4 誰もが平等に学べるような、特別な支援を必要とする生徒のための環境づくりと、過度な負担とならない通学環境を確保すること。
- 5 高校の廃校を含む、第2期実施計画の内容について、具体的に地域が認識したのは、本年7月だと受け止めています。したがって、地域から出されている入学者数の増加などに向けた取り組みについて、実行できる期間5年間を確保すること。
- 6 本県を担う若い力を育てていくためには、県と地域が一体となって取り組んでいくことが重要と考えます。したがって、地域の理解を得ないままの第2期実施計画推進としないこと。

## 2 各地区の学校規模・配置に対する意見

### (1) 東青地区

#### ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
148	東青③	青森中央高校と青森南高校を廃校にし、その場所を売って税込アップを図れば良いのではないか。また、青森南高校を廃校にすれば、住宅地として需要があるのではないかな。
149	東青③	高校を増やしていたのは、人口が増加している時期であり、高校を減らすのであれば、その歴史のない高校、新設校と呼ばれる高校が対象になるのではないかな。東青地区で一番新しい高校は昭和49年に設置された青森南高校である。青森南高校は立地場所も良くないことから、浪岡高校ではなく青森南高校を廃校とすれば良いのではないかな。

#### イ 統合に関する事項

No	区分	提出された意見等
150	東青③	計画（案）における統合校という言葉はまやかして、紛れもなく閉校案であり断固反対である。
151	東青③	浪岡高校については、2学級規模であれば存続してもらいたい。1学級規模となると行事等の実施が難しくなってしまう。
152	東青③	中国に「井戸の水を飲むときに井戸を掘った人の気持ちを忘れてはならない」ということわざがあるが、どうか県教育委員会は、今一度そのことを踏まえ、浪岡高校を存続させてほしい。再検討をお願いしたい。
153	東青③	東青地区の学校配置は、弘前市の私立高校への入学を促すようなものになっていないかな。弘前高校、弘前中央高校及び弘前南高校以外への進学を目指す生徒は私立高校へ行けと言っているように感じる。
154	東青③	少人数だからこそプラスの面がある。浪岡高校は生徒数が少ないため、生徒一人一人の役割が大きく、多くのチャンスが回ってきたことで、苦手だった人前で何かをすることも良い経験だと思えるようになり、自ら挑戦することが増えた。このように少人数であれば生徒一人一人に回ってくるチャンスが多く、様々な経験をすることができる。行事等も人数が少なく大変だが、その分一人一人が活躍でき達成感がある、地域行事のボランティアの活動が楽しいなど、様々な意見がある。是非浪岡高校の存続をお願いしたい。
155	その他	浪岡高校を1日も早く閉校にしてほしい。
156	東青③	県全体で見ると、浪岡高校の存続は本当に必要なのだろうか。多くの人はそうは思っていないと考える。過去の話も延々しても良くないため、現状とこれからのことを考えて、県教育委員会として方向性を示してほしい。
157	東青③	浪岡高校を重点校にしてほしい。
158	東青③	浪岡高校を併設型中高一貫教育校としてほしい。附属中学校を青森市立浪岡中学校としてほしい。
159	東青③	浪岡地域の中学校は浪岡中学校1校である。よって、高校を閉校することを先に考えるのではなく、中高一貫教育校にすれば入学者数が増えるのではないかなど、前向きに検討し、計画を作るべきではないかな。

No	区分	提出された意見等
160	東青③	地元の浪岡中学校からの高い支持なくして成功はない。このことから、浪岡中学校と浪岡高校による中高一貫教育校を設置し、まずは心の一貫校をこれから推進し、2年くらいを目途に実現を期待する。浪岡高校の校舎に入ると、生徒も先生も和やかで、家庭的で、きれいで、広々として歓迎してくれる。浪岡中学生の浪岡高校への訪問機会を増やす方法として、例えば文化祭等へ相互に訪問する、最初はPTAの役員やクラスの役員が交流していくなど、関係者が考慮しながら実現してほしい。将来浪岡中学校の校舎が改築等となった場合、プレハブ等の仮校舎がなくても高校の校舎を利用でき、さらに高校に並立した構想もあり得る。
161	東青③	浪岡高校の学科をスポーツ科学科としてほしい。
162	東青③	令和2年度の浪岡中学校生徒の進路状況は、普通科と総合学科を合わせて97人、工業科・商業科・外国語科については1桁台の入学者数となっている。総合学科である青森中央高校が設置している人文科学、自然科学、生活科学、情報ビジネス、美術の系列に、環境科学、食品科学、生物生産などの農業に関する系列を付け加えて浪岡高校を総合学科にしてはどうか。
163	東青③	浪岡高校生徒数の増加策として、開校90年以上の伝統のある浪岡高校の文芸をさらに高くして復興する、名付けて「浪岡高校ルネサンス」が不可欠である。スケートボード等の同好会や若者に人気のヒップホップダンス、よさこいソーラン等、他校にない種目を浪岡高校が先駆けて文化発信し、練習の場を作り、指導者を招聘すれば、浪岡高校がもっとオープンになり、浪岡地域だけではなく弘前市、五所川原市、黒石市からも生徒が入学するものと考え。浪岡高校を閉校させないための対策案は尽きないが、浪岡高校の存続を求める会が高校側と相談し、早急に活動し、募集停止の期限までに実績を残した場合、県教育委員会は学級数を1学級増やすよう計画を再考してほしい。 アメリカンドリームという言葉がある。「浪岡高校ルネサンス」が功を奏し、生徒数、学級数が増え存続し、浪岡高校100周年をみんなで祝福することが私の「ナミオカンドリーム」である。
164	東青③	浪岡高校の存続が決定した場合、将来を見据えて、例えば浪岡みらい高校などの名称とし、生徒最優先はもちろんのこと、地域振興策として生徒と家族の移住や定住などを進めてほしい。これは青森市、青森県はもとより全国、そして世界に発信できるアスリートたちによる地域振興につながることを期待される浪岡地域としての最後の思いである。
165	東青③	これからも浪岡地域でバドミントンを頑張って、浪岡の名前に恥じないような結果を出していきたいと思っており、浪岡高校の存続を希望する。
166	東青③	浪岡高校のバドミントン部が令和8年に本県で開催される国民スポーツ大会の強化指定校になっている中、翌年に募集停止となってしまうことで、優勝を目指して頑張っている選手の志気に関わるのではないかと。
167	東青③	これからもっと全国や世界で活躍するバドミントン選手が浪岡高校から出てくると考える。今の高校1年生と中学校3年生は私の世代よりはるかに強く、そのような将来性のある後輩たちを見捨てたくないため、伝統ある浪岡高校はこれからもずっと存続してほしい。自分が人間として大きく成長できたのは、浪岡中学校と浪岡高校に入学してからであり、とても感謝しているため、浪岡高校がなくなることは避けてほしい。
168	東青③	県外の中学生在が優秀な指導者の下でバドミントンを通じて人格を形成し、大学卒業後、出身地ではない浪岡地域に帰ってきてバドミントンの指導に携わっていきたいと思っている者もいる。例えばこの地域で就職し、バドミントンクラブチームに何らかの形で自分の経験を伝えたいといった志を抱くことが本当の人財育成ではないか。この浪岡地域の好循環は、高校だけではなく小・中学校段階からクラブチームで生まれてきた。よって、これが青森西高校と統合となった場合、クラブチームの生徒がそのまま統合校に進学しないと考える。県教育委員会は浪岡地域のこの好循環を全て壊そうとしており、青森市長の提案、それを議決した青森市議会の思いを壊そうとしている。計画(案)の段階であり、青森市議会の議決の重さを考慮し、検討してほしい。

No	区分	提出された意見等
169	東青③	浪岡ジュニアバドミントンクラブとして17年ほど前から中国、韓国、インドネシア、タイ、アメリカと交流をしている。旧浪岡町のバドミントン協会として韓国の選手を受け入れて交流をした経緯もあり、そのような流れから、グローバルな活動に対しても活用できる術や海外とのパイプもあるため、是非活用してほしい。 また、バドミントンの関係で国内の大学も浪岡高校に来校したり、青森県で日本リーグ等があった場合には、名立たる実業団が来校したりして練習の拠点として使用された実績もある。そのような関係性やこれまでの実績等も加味して、今後も検討してほしい。
170	東青③	部活動指導員は県教育委員会の事業だが、市としても支えていく。部活動指導員の人選については、部活動で全国レベルの指導ができる人を指定すべきと考えており、中高連携して推進していくという考えの下、青森市議会へ提案し予算計上されたものである。 青森市として精一杯浪岡地域を支えるために正面から市議会とぶつかって予算計上を認められたが、あえて、このような青森市の誠意は踏まえなかつもりなのか。
171	東青③	百歩譲って新生青森西高校でも良いので、是非、浪岡地域に高校を配置してほしい。野内地域に工業高校があるのだから、浪岡地域に新設校があっても全然不思議ではない。
172	東青③	統合校は青森西高校の校舎を利用することとなっているが、浪岡地域は青森、弘前、五所川原、黒石等、津軽地域の中心地にあり、多様な人材を集めることが可能であることから、浪岡高校の校舎を活用するよう検討してほしい。
173	東青③	地域性を考えれば、浪岡高校には弘前市や黒石市からも通っている生徒がいるため、絶対存続しなければならない。青森西高校を廃校とし、浪岡高校を存続させれば、誰も反対意見は出さないのではないか。
174	東青③	浪岡高校の志願状況を見ると、統合は仕方がない気がするが、統合校の設置場所は青森西高校ではなく浪岡高校の校地でも良いのではないかと。旧青森市内からの通学者が多いからなどの理由も併せて計画に記載した方が分かりやすい。

ウ その他  
特になし

(2) 西北地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
175	西北②	木造高校の学級減には反対である。
176	西北②	木造高校の学級減の白紙撤回を求める。
177	西北②	木造高校が1学級減にならないようお願いしたい。
178	西北②	木造高校の1学級減は納得がいかない。計画(案)の見直しを希望する。
179	西北②	計画(案)を作った時に矛盾だらけの内容に気付かなかつたのか。木造高校の1学級減に絶対反対である。
180	西北②	地域に馴染んできた木造高校はこの地域の誇り、宝であるのに、なぜ学級減とするのか。
181	西北②	県教育委員会が掲げる高校教育に、木造高校の学級減は反している。また、木造高校の学級減に市民の多くは反対だと思う。定員を満たしている木造高校の学級減は第2期実施計画で検討する事案ではない。子どもたちの思いを壊すようなやり方はやめてほしい。

No	区分	提出された意見等
182	西北②	木造高校が学級減となる年度が後になるほど、子どもたちは準備する期間がある。今の中学校1、2年生の保護者は、自分の子どもが木造高校に入学するときに学級減になるのかと慌てている。そう考えたとき、1～2年計画決定を先延ばしすることが、一番子どもたちのためになるのではないか。
183	西北②	少子化が進む中でも木造高校は高い定員充足率を維持しているが、1学級減となれば、40人の子どもたちが木造高校に進学できなくなる。その子どもたちに対し、学科のバランスを考慮した結果だから申し訳ない、違う高校に行ってくれないかと、夢を壊すような、進路を閉ざすようなやり方は教育者としていかがなものか。
184	西北②	木造高校を学級減することで、つがる市から五所川原市内へ進学する生徒が増えることが考えられる。この場合、本人の学力や家庭の経済力等により元々志望校が絞られている生徒の選択肢がさらに減ってしまい、希望する高校に入学できず、将来の目的に向かって進めない生徒が出てくるのではないか。できれば受検倍率を考慮した計画を進めてほしい。
185	西北②	結論ありきの感じがしてならない。子どもの減少は仕方がないが、志望倍率の高い木造高校が学級減になるのは理解できない。
186	西北②	木造高校の学級減は大反対である。子どもたちの間で木造高校は人気がある。自分自身も木造高校を卒業しており、子どもにも入学してほしい高校である。定員割れが何年も続くような状況となってから学級減を検討しても良い。木造高校の学級減を考え直してほしい。
187	西北②	西北地区で人気が高い木造高校にはスポーツをしたい、勉強をしたいと思って頑張っている子どもたちがたくさんいるが、1学級減ということは子どもたちの夢や希望も限られてしまう。木造高校はつがる市からだけではなく、他の地域から入学している生徒もたくさんいる。木造高校を1学級減するのは反対である。
188	西北②	木造高校の1学級減について、再考、白紙撤回をお願いしたい。西北地区で志願倍率が高く、人気校である木造高校を学級減する理由が分からない。県教育委員会は子どもたちの夢や志を育む教育を謳っているが、木造高校が1学級減となった場合、木造高校で学びたいという40名の子どもたちの夢や志はどうなるのか。
189	西北②	木造高校において定員割れが進んでいるのであれば、学級減は仕方がないが、少子化が進む中でも定員を満たす人気校であり、それにも関わらず学級減とすることは理解できない。木造高校の定員割れが進んでから、学級減を検討すれば良いのではないか。次期実施計画を今後策定するのであれば、その時に木造高校の学級減を検討してほしい。
190	その他	中学校卒業生数の減少につれ、他校の入試倍率等は下がっていくと思うが、木造高校は人気のある高校であり、入試倍率等はキープしていこう。第2期実施計画における木造高校の学級減実施年度について、入試倍率等を考慮の上、学級減の取り止めも含め検討してほしい。
191	西北②	これからの時代に求められる力を身に付けるという県立高校教育改革の目的にとっても感心しているが、これは木造高校が以前からしっかり取り組んでいることである。また、インターネットで調べたところ総合学科とは、自己と向き合い、多種多様な学習を行うことで、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を行う学科であるとのことであり、まさに木造高校が掲げている文武両道を通した教育方針に合致していると思う。この素晴らしい教育をしており、中学生から人気も高い木造高校を1学級減することは理解できない。是非もう一度、木造高校の学級減について考え直してほしい。
192	西北②	地区懇談会の資料はあまりにも表面的な資料で、読んでいる者を納得させるものではない。これでは、木造高校を1学級減する意味が分からない。県教育委員会の回答も、質問の答えになっていない、にごした答え方であった。定員割れしていない木造高校を学級減するのは間違っている。
193	西北②	中学校卒業生数の減少を理由に木造高校を学級減の対象とするのは論理的ではない。第2期実施計画で4学級を維持することとなっても、定員割れすることはない。

No	区分	提出された意見等
194	西北②	木造高校にはつがる市以外の中学校から6割以上も入学していることから、つがる市の中学校卒業生数の減少による木造高校の学級減という説明には矛盾がある。西北地区全体を考えた場合、中学校卒業生数が減少しているのはつがる市だけではない。学級減すべきなのは木造高校ではない。
195	西北②	木造高校を学校減する明確な理由が見当たらない。今後県内全域で少子化が進むことは分かっているが、地域の声・実情が県教育委員会に伝わっていないように感じる。重点校ありきで物事が進行している気がする。
196	西北②	2校もある5学級規模の高校が学級減されず、なぜ4学級規模の高校が学級減されるのか。4学級から3学級への学級減はとても苛酷な減少であり、なぜ木造高校だけが学級減の対象になってしまうのかと皆が感じている。つがる市だけでなく、西北地区全体の中学校卒業生数も減少すると言うが、木造高校を学級減する理由として納得できない。
197	西北②	木造高校が基本となる学校規模の標準である4学級を下回することは、将来的に更なる学級減と統合への道に進むことを意味する。また、木造高校深浦校舎の閉校に続き、地域校となる鱈ヶ沢高校もやがて閉校の道を歩む。西津軽郡から高校がなくなる懸念を抱かざるを得ない。
198	西北②	木造高校が3学級規模になった後、学級減が進み、いずれ廃校になるのではないかと誰しもが予想している。そうなった場合、岩木川を挟んで東側にだけ高校があり、西側には高校がなくなる。県はオール青森と謳っているが、西北地区の対応も同様とすべき。
199	西北②	重点校というのは東京大学等の一流大学を目指す高校だと思うが、一流大学に入学するためには少数精鋭でなければならない。また、木造高校が4学級規模から3学級規模になると閉校が近づいてくるため、共存する観点から、県教育委員会は考え方を变えるべきである。
200	西北②	高校が4学級規模から3学級規模になることと、5学級規模から4学級規模になることは大きく異なる。木造高校が3学級規模になると、いずれ閉校となることが見えてくる。将来は五所川原市に全て高校が集中することとなる。特定の高校に理屈を付けて学級減しない考え方を改めることが大事である。
201	その他	基本となる学校規模の標準未達となることは格下げである。木造高校が定員割れしているのであれば仕方がないが、現状そうではない。4学級から3学級への格下げはやがて閉校となる前ぶれであり、いずれ閉校となった場合、地域が崩壊してしまう。学科バランスではなく地域バランスを考慮してほしい。
202	その他	木造高校がいずれ廃校となった場合、つがる市の子どもたちは一番近くで五所川原市の高校に通うこととなる。部活動をすれば朝早く帰りは遅くなる。天気に左右され運休・遅延する五能線や、本数が少なく料金の高いバスで通学する生徒の現状を再度精査してほしい。
203	西北②	現在の鱈ヶ沢高校は1学級規模であり、崖っ縁である。また、木造高校が3学級規模になった場合、今後2学級、1学級と減らされていくことは目に見えている。中里高校、金木高校、鶴田高校、板柳高校のように、木造高校が3学級規模になることで、受検生から見切りをつけられ受検倍率が大幅に低下していく。そうすると、将来、西津軽郡に高校が1校もないという事態になる。地域における高校の役割、地域の実情に配慮する必要があるとしながら、全く反対の方向に向かっている。教育の機会均等、教育の格差是正を訴えながら西津軽郡は外されることとなるが、これでオール青森、オール西北と言えるのか。
204	その他	おそらく鱈ヶ沢高校は数年後に閉校となるだろう。そうなった場合、西津軽郡には木造高校しか残らないこととなるが、県教育委員会はその西津軽郡唯一の高校を学級減しようとしている。鱈ヶ沢高校が閉校となるかどうか状況を見て、次期実施計画で木造高校の学級減について検討すれば良いのではないかと。
205	西北②	定員割れの人数は五所川原高校よりも木造高校の方が少ない。最初から木造高校を学級減することありきであり、残念である。
206	西北②	重点校について知ったことではない。定員割れし不人気の五所川原高校を1学級減し、志望倍率が高い木造高校の学級数を維持するのが当然ではないか。計画に整合性がない。

No	区分	提出された意見等
207	西北②	定員充足率を木造高校学級減の理由の一つとするのであれば他地域をどんどん受検し、落ちたら五所川原高校で受け入れるということか。学級減の対象については、第1次志望状況調査の数で判断して行くべき。また、五所川原高校が学級減となった場合だけでなく、木造高校が学級減となった場合のデメリットも提示するべき。
208	西北②	五所川原高校が50名の定員割れをしているのに木造高校が学級減となること、人口減少を理由にしたのに五所川原工科高校に普通科を設置したこと、五所川原工科高校普通科に金木、鶴田町及び板柳町から30%が入学しているとのことだが、その他70%が五所川原高校と木造高校の募集人員にどう影響するのかということなど、回答してほしい。
209	西北②	一定の倍率を維持し、人気校である木造高校が1学級減とされ、昨年度の一次進路志望状況調査で大きく定員割れしている五所川原高校を、重点校であることを理由に5学級を維持したり、新設したことを理由として五所川原工科高校の普通科2学級を維持したりするなど、到底理解ができない計画である。
210	西北②	中学生、高校生、保護者、教員、企業等を対象に望ましい学校規模について令和元年度に調査したところ、1学年4～5学級規模の回答が最も多い結果となっているとのことであった。この理由から五所川原高校を5学級維持しているものと思うが、木造高校はその望ましい学校規模から外しても良いのか。
211	西北②	定員割れしていても重点校だからと言って学級減せず、理想の高校であり人気校でもある高校を学級減するという県教育委員会の考え方について、重点校とは何かということ、県教育委員会と地域住民間でもっと理解し合う必要があるのではないかと。魅力があり、子どもたちが学びたいと思い、理想の高校づくりもされている高校こそ、県教育委員会は応援すべき。
212	西北②	人口減は第1期実施計画でも予想できていたのに、五所川原工科高校に普通科を新設したということは、第2期実施計画における木造高校の学級減が当初から計画されていたとしか考えられない。中学生のニーズに沿った計画としてほしい。
213	西北②	木造高校の学級減に絶対反対である。木造高校への進学を諦め、定員割れしている五所川原高校へ進学し、後悔している生徒がたくさんいる。五所川原高校は進学校なので勉強についていけず10人以上も不登校となっている。全ての子どもが大学進学を目指し勉強する訳ではない。陸上部や吹奏楽部に入部したい、公務員を目指したいといったことは、木造高校でなければできない。どうか子どもの夢をつぶさないでほしい。木造高校は地域活動も素晴らしいため、地方が盛り上がれば、それが青森県の力になる。逆に木造高校の学級数を増やしてほしい。
214	その他	ここ数年、定員割れしていて再募集でやっと生徒を集めている五所川原高校を西北地区の重点校とし、部活動でも結果を出している木造高校を学級減することは誰もが納得できない。西北地区の小・中学生には、木造高校に入りたい、木造高校で部活もやりたい、と目標にしている子どもたちがたくさんいる。学級減によりいずれ部活動の減という影響が出てくるのが予想され、様々な結果を出し伝統ある木造高校の部活動を継続できない状況では、希望あふれる木造高校を目指す子どもたちが可哀想である。
215	その他	志願倍率が低い高校が学級減となるのが当たり前なのではないか。県教育委員会は「生徒の夢や志の実現に向けて」などと謳っているが、この計画(案)は真逆のことをしようとしている。木造高校が1学級減となることで、木造高校へ進学を希望する40人の生徒の夢が潰れることとなる。
216	その他	なぜ木造高校を1学級減し、基本となる学校規模の標準未満に格下げするのか。それよりも、五所川原高校を1学級減した上で、青森高校や弘前高校等の進学校と連携し、理数教育等を充実させれば良いのではないかと。近年ICT環境の充実も進んでいるため、リモートによる理数教育等の充実も可能と考える。



No	区分	提出された意見等
217	その他	五所川原高校と五所川原工科高校は学級減できないため、消去法で木造高校が学級減の対象になったのだろう。子どもたちの進路志望や教育環境の充実、地域のことを何も考えておらず、ただの数合わせである。中学校卒業生数の減少に伴い、学級減を進めなければいけないことは理解しているが、木造高校が学級減となる理由が全く納得できない。木造高校は中学生から人気があり定員を満たしているのに、なぜ学級減の対象となるのか。五所川原高校と五所川原工科高校を学級減できない理由ばかり探すのではなく、この2校を学級減するための理由を探すのが県教育委員会の仕事なのではないか。
218	その他	県教育委員会は五所川原高校と木造高校の定員充足率を比較しているが、五所川原高校は再募集で定員充足率を上げている状況である。このような状況で、果たして重点校としての役割や充実した理数教育を実施することができるのか。
219	その他	五所川原高校と木造高校の定員充足率が同程度だと述べているが、再募集で定員を満たすような重点校があって良いのか。そのような重点校が各校を牽引するリーダーにはなれないし、連携を推進することもできないだろう。県教育委員会の方針では重点校は5～6学級あれば成り立つとのことだが、県内に1つしかない理数科が設置されていることをもって5学級を維持することはやめてほしい。五所川原高校の理数科を廃止することを要望する。
220	西北②	木造高校が1学級減となることで、部活動は生徒会で十分な検討ができなければ廃れていき、文武両道を掲げている木造高校の活力が低下することが予想される。
221	西北②	木造高校がなくなれば、この地域は成り立たなくなってしまう。計画(案)では、生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための魅力ある高校づくりの更なる推進を謳っているため、木造高校は逆に学級を増やしてほしい。
222	西北②	学校規模が大きいほど、教育環境が充実され部活動数も多くなるとのことだが、木造高校は学級減することでこの逆となる。これが果たして地区全体のバランスを考慮した対応と言えるのか。
223	西北②	木造高校が平成15年に総合学科となり、学業もスポーツも就職も、今ようやく結果が出てきている。県教育委員会の方針に従って総合学科を設置し、結果が出ているのに、学級減とするのか。
224	西北②	木造高校が普通科から総合学科に改編し、15年程経過したが、苦勞しながら現在の教育活動を作り上げ、素晴らしい人財を送り出している。特に県内に残り地域の活性化を行う人財が育っているため、つがる市の中学校卒業生数が減少することを理由に学級減することは考え直してほしい。
225	西北②	重点校は各地区1校にするとのことだが、木造高校も重点校としても良いのではないか。
226	西北②	木造高校を1学級減とするならば、総合学科の系列の再考が必要になるのではないか。
227	西北②	木造高校の学級減の検討は、35人学級編制の拡充を待ってから検討すれば良いのではないか。
228	西北②	木造高校の学級数を減らす理由が納得できない。「高校が古くて改修する予算がないから統合に向けて進めている。」と言われた方が理解できる。このまま計画(案)を絶対に進めないでほしい。県職員は市町村のために働いていることを忘れないでほしい。

No	区分	提出された意見等
229	その他	<p>地区懇談会の発言者からは、進路志望状況において高い倍率となっていることを基準に話しても、県教育委員会は定員充足率で答える場面があった。定員充足率はあくまでも結果の話であり、子どもたちの率直な思い、希望に沿って考えるのであれば、進路志望倍率にスポットを当てた方が良いのではないか。そのデータの使い方について、県教育委員会にとって都合の良いデータを選択し、根拠にするようなことは、正しい使い方とは言えず、地域住民も納得しかねる。</p> <p>重点校である五所川原高校がその務めを果たすために学級数（教員数）を維持しなくてはいけないことは分かったが、根拠にしている数字（定員充足率）に地域住民の理解が得られないのであれば、学級数は削減した方が良い。</p> <p>今後数年で西北五地区から多くの高校が無くなり、そこに掛けていた給与等の人件費、学校の維持に係る施設整備費が不要になる。そのほんの一部でも五所川原高校の人件費に充当すれば、五所川原高校を学級減しても、教員数が確保でき、教育の質は十分維持できると考える。</p>
230	西北②	<p>五所川原農林高校の森林科学科と環境土木科の統合について、1学級減により教員数が減少しても学習内容を減らすことなく充実させるといふのならば、大変なことになってしまう。また、生徒にとって学科改編にはどのようなメリットがあるのか疑問があるため、見直しを強く要望する。</p>
231	西北②	<p>西北地区の学校配置について、計画の見直しを検討してほしい。</p>
232	西北②	<p>西北地区での「普通・理数・総合」の3学科を一体のものとして捉え、再編・見直すべき。また、普通科が五所川原市に偏在している。</p>
233	西北②	<p>五所川原市内には私立高校も含め5つの高校が一極集中し、このことは地域による教育格差を招いており、保護者の経済的な負担は増すばかりである。</p>
234	西北②	<p>西北地区では木造高校と五所川原農林高校が学級減の対象となっているが、五所川原高校、五所川原工科高校を学級減するシミュレーションや、私立高校も含めた学級減の検討はできなかったのか。</p>
235	西北②	<p>五所川原高校は5学級規模でなければ重点校になれないのか。県教育委員会は重点校、拠点校、地域校を三本柱とし、高校教育改革を推進しようとしているが、重点校である五所川原高校は学級減の対象とはならないことを黙認しろと言っているように感じる。</p>
236	西北②	<p>重点校の見直しをなぜ行わないのか。重点校である五所川原高校の定員割れが昨年は1学級分となり、今後はますます増加すると思われる。現在の中学生やその保護者は、入学できるか分からない県立高校を受検せず、私立高校に流れることが多い。木造高校を1学級減したとしても重点校の五所川原高校の定員充足にはつながらない。</p>
237	西北②	<p>五所川原農林高校と五所川原工科高校普通科を1学級ずつ減とする計画（案）であれば、ここまで問題になっていない。五所川原工科高校は今年度新設したため、学級減できないとのことだが、新設校だからこそ学級減しても誰も反論しない。</p>
238	西北②	<p>学級減や統廃合は10年後、20年後まで考えるべき。10年後、五所川原農林高校を廃校にするために、少しずつ学級減していくといった決め方の方が、子どもたちや地域に優しい。</p>
239	西北②	<p>五所川原工科高校に普通科を2学級設置したことは理解できない。金木高校、鶴田高校、板柳高校の普通科を統合したことによる普通科設置だと思うが、高校の統廃合は足し算ではない。</p>
240	西北②	<p>普通科2学級と工業科3学級の五所川原工科高校は、金木高校、板柳高校、鶴田高校の閉校に伴い新設された高校であるが、この高校を開校する前に、この地区の学級減が避けられないことを視野に入れていけば、このような学科構成にはならなかったものと思う。五所川原工科高校も学級減の対象とすべき。</p>
241	西北②	<p>西北地区において人口減少が進む中、人口のバランスをとるためには、中心市に全ての高校を集めないことが必要である。なぜ五所川原工科高校に1学級35人編制の普通科を2学級設置したのか。40人編制の1学級で良いのではないか。</p>

No	区分	提出された意見等
242	西北②	五所川原工科高校の2年後の状況をみて、計画（案）を見直しすれば良いのではないかと。
243	その他	五所川原工科高校は普通科におけるキャリア教育や工業科における大学進学等、多様な学びを提供しているため学級減しないとされているが、その理論ならば多様な学びを提供している木造高校こそ学級数を維持すべき。第1期実施計画策定時は五所川原工科高校に2学級35人編制の普通科を併設させる考え方ができたと思うが、中学校卒業生数の減少が加速している第2期実施計画ではこの考え方を見直し、五所川原工科高校の普通科を1学級減した上で40人編制とすべき。
244	西北②	西北地区の中学校には、バレーボール、バスケットボール、相撲、柔道等の県内トップの選手がたくさんいる。一方、高校に進学する段階で、西北地区以外の高校へ進学する生徒が相当数いると思われる。西北地区にスポーツ科学科があれば、その高校へのニーズが高まるのではないかと。

### イ 統合に関する事項

No	区分	提出された意見等
245	西北②	どこの県立高校の施設も老朽化している。また、将来の人口減も避けられない。いっそのこと西北地区の全ての高校を1つにしたらどうか。新設することや各校（五所川原工科高校、五所川原農林高校）の校舎を使用するキャンパスのような扱いなど、固定概念にとらわれない考え方はできないか。そうすることでわざわざ青森市へ進学する必要はないし、学科の新設ができるのではないかと（調理、介護、情報等）。

### ウ その他

No	区分	提出された意見等
246	西北②	木造高校の存在意義・役割を教えてください。
247	西北②	この地域の同窓生はこの問題について非常に関心が高いことを忘れないでほしい。また、エビデンスだけでは説明できない問題もたくさんあることをどうか検討する材料にしてもらいたい。

## 【青森県立木造高等学校の学級数維持を求める意見書】

(令和3年9月22日付 つがる市議会議長)

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)が令和3年7月に青森県教育委員会から公表されたが、その内容には青森県立木造高等学校(以下「木造高校」という。)の学級数の減が含まれていた。

木造高校は、旧制第四中学校として創立以来、文武両道を掲げ、受け継がれてきたその校風と実績は高く評価され、勉学と部活動の双方に励みたいという西北地区の中学生が入学を希望し、過去5年間の第1次進路志望状況調査倍率は、同地区の中では一番高い状況となっている。

西北地区の教育環境と地域の活力となる高校生の学習の場を守り、また、新しい時代を主体的に切り拓いていく人づくりをめざし、地域と連携した魅力的な教育活動を推進している木造高校は、当市の教育の推進に大きな役割を担っている。

木造高校の学級数減は、夢や希望をもって進路選択を考えている西北地区の中学生にとっては、可能性を狭めてしまう深刻な問題である。このことから次の事項に基づき、木造高校の学級数については、現状の学校規模の標準である4学級を維持するよう強く求める。

- 1 木造高校は、開校当初から文武両道を掲げ、学業と部活動の両立を実践し、これまでに多くの地域を支える人材育成に取り組みながら、つがる市唯一の高等学校として地域経済に貢献しているほか、縄文文化や伝統文化を生かしたまちづくりに主体的にかかわるなど地域振興に欠かせない貴重なリーダーを育成する役割も担ってきた。

令和3年3月末の実績でも、進学率70%以上、就職者中の公務員の割合は全体の20%を占めており、西北地区高等学校の中では中学生からの人気が高い状況が続いている。

今回の木造高校の学級数減の案は、伝統ある学校の魅力であり文武両道の一翼を担う部活動の活性化に多大な影響を及ぼし、西北地区中学生の進路選択肢を狭めるだけでなく、地域とのつながり、ひいては学校全体の活動の衰退につながるものである。

- 2 急速に進む少子化の中であって、5年間平均1.17倍と中学生の進路志望状況調査では西北地区で一番志望者が多い木造高校の学級数減は、中学生の進路選択に与える影響が非常に大きく、同地区の高校受検倍率の状況を鑑みても、おのずと志望者が50名以上少ない学校から1学級減とすることが妥当である。

- 3 普通科や総合学科は、授業形態及び授業の方向性にさほど相違がないことから、西北地区において普通科関係と専門学科関係に分けて総合的に考えた場合、普通科の学級を減ずることが妥当である。また、西北地区の生徒数減少が想定できたのであれば、同地区に普通科2学級を新設したことは他校に影響を及ぼすことも容易に想定できたはずで理解しがたく、木造高校の学級数減よりも、新設された普通科の1学級減または、志望者が少ない普通科からの1学級減を優先すべきである。

- 4 青森県立高等学校教育改革推進計画は、これまで以上に知事部局と教育委員会とが連携を強化し、知事部局が進めている地域活力振興、人口減少対策の視点を踏まえた青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画を策定するべきである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

## 【青森県立鱒ヶ沢高等学校の存続を求める要望書】

(令和3年10月11日付 鱒ヶ沢町長 外2名)

青森県教育委員会では、令和5年度からの青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画案について、去る7月7日、鱒ヶ沢高等学校を地域校とする方針が出され、同校が地域校の指定を受け、募集人員に対する入学者の割合が2年継続して2分の1未満となった場合、翌年度からは募集停止となり、廃校となる可能性があります。

もし鱒ヶ沢高等学校が廃校になると、秋田県境の深浦町から公共交通機関であるJR五能線沿線の県立木造高等学校まで約90kmの区間に高校が存在しないことになり、また、津軽半島においても市部を除けば全く高校が存在しない状態に陥ることになります。

このような状態になっては、これらの地域に住む多くの中学生にとって高校への通学が非常に困難になるとともに保護者の経済的負担も増大することになります。

よって、西海岸地域、そして近隣住民の高等教育を受ける権利の保障及び教育環境の確保のため、鱒ヶ沢高等学校の存続は極めて重要であると考えております。

当町では、活力ある地域社会を持続していくためには地域を担う若者の人材育成が必須であると考えており、令和元年に鱒ヶ沢高等学校と連携協定を締結し、産業振興、歴史文化、まちづくりなどの分野で、地域社会の発展となる事業を展開しています。

その中でも、鱒ヶ沢高等学校SBP活動につきましては、地域企業との連携による商品の開発、実践販売などを通し、地域経済の活性化に寄与しており、全国高校生SBP交流大会においての活動発表は高い評価を受け、令和2年度には全国2位にあたる三重県知事賞を受賞するなど、鱒ヶ沢高等学校の魅力として定着しているところであります。

このような県内市町村と県立普通高校が連携協定を締結するのは当町が初めてであり、以降、SBP活動支援のほか、IT人材育成のため町からの講師派遣、鱒ヶ沢高等学校による文化芸能の伝承及び地域事業における生徒ボランティア活動など、鱒ヶ沢高等学校は地域に欠かせない高校であるという認識をさらに強めているところであります。

また令和2年度を開始年度とする、第2期まち・ひと・しごと創生鱒ヶ沢町総合戦略においては、鱒ヶ沢高等学校との連携事業による高校の人材育成と高校魅力化が、地域経済の発展に重要であると位置づけているところであります。

しかしながら、新型コロナウイルスが全国的に感染拡大し、令和2年度からは様々な高校活動が制限され、鱒ヶ沢高等学校の魅力を地域の小中学生や保護者、地域企業、地域住民に伝え訴えていく場が無くなっているのが現状であります。

この度、青森県教育委員会では、改めて鱒ヶ沢高等学校の魅力を見直すため地域校活性化協議会の設置や生徒全国募集を提案されておりますが、そのスケジュールを見ても、令和5年度の入学時に成果を上げるには期間が短かすぎ、令和6年度入学者への効果も十分な期待は出来ないものと危惧しており、せっかくの取組みにもかかわらず、令和5年、令和6年と計画開始早々に2年連続入学者数が定員の半数を割ってしまうことを懸念しています。

なお、地域校活性化協議会による高校活性化や生徒全国募集については大いに賛同するところであり、町としても強力に推進し財政出動も惜しまないところでありますが、地域校の存続に向けて、県教育委員会においても高校活性化に向けた協議会などへの主体的な参画や県による財政的支援など、積極的な配慮をお願い申し上げます。

以上のことから、次のとおり鱒ヶ沢高等学校の存続について最大限のご配慮を重ねてお願い申し上げ、青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画における、地域校における募集停止のプロセスについても見直しを要望いたします。

- 一 地域活性の人材育成のために、鱒ヶ沢高等学校の存続を強く求めます。
- 一 第2期実施計画において地域校になった場合、募集停止の条件となる人数枠の緩和について特段のご配慮を求めます。
- 一 第2期実施計画において地域校になった場合、2年間継続して入学者数が2分の1未満で募集停止という条件を見直し、計画年度5カ年での入学者の推移を検証することにより、募集停止の可否を総合的に判断するよう、方針の見直しに特段のご配慮を求めます。
- 一 地域校活性化協議会による高校活性化や生徒全国募集について、県による財政的支援など積極的なご配慮を求めます。

## 【青森県立木造高等学校の学級維持を求める決議書】

(令和3年10月15日付 木造高校の学級維持と地域を守る会会長)

青森県教育委員会が公表した青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（以下：実施計画）（案）において、木造高校は県の定める一学年の標準学級四学級を下回る三学級案が提示された。木造高校は、旧制第四中学校から伝統として受け継いでいる「文武両道」を実践し、現在もその校風を守っている市内唯一の高校である。

しかし、今回の実施計画案は将来西津軽地域から高校がなくなるのではないかとの強い不安を、児童生徒や地域住民に与えるものであり、現在も人気の高い木造高校を志望する生徒の夢を奪うことにもつながるものである。

さらには地域経済にも大きな打撃を与えることとなり、これは、青森県が推進している地域の活性化にも逆行するものである。

このことから、つがる市、つがる市議会、つがる市商工会、木造高校後援会及び同窓会、つがる市内関係PTA、並びに地域住民など関係者と共に「木造高校の学級維持と地域を守る会」を組織したものである。

よって、青森県知事及び県教育委員会においては、「木造高校の学級維持を求める」本会の声を真摯に受け止め、青森県が進めている地域活力振興、人口減少対策の視点を踏まえた実施計画を策定されるよう強く要望する。

以上、決議する。

### (3) 中南地区

#### ア 学校規模・配置

特になし

#### イ 統合に関する事項

特になし

#### ウ その他

特になし

### (4) 上北地区

#### ア 学校規模・配置

特になし

#### イ 統合に関する事項

特になし

#### ウ その他

特になし

(5) 下北地区

ア 学校規模・配置

No	区分	提出された意見等
248	下北③	大湊高校はいつまで募集するのか。本当に地域校で良いのか。
249	下北③	人口減なので閉校・統合という安易な方針と言いつつ長々と書かれていた。この論理を県人口100万人、80万人に当てはめると、むつ・下北地域には高校が1校になると暗に書いてある。しかも、〇〇高校むつ校舎となることを連想させる資料であった。

イ 統合に関する事項

No	区分	提出された意見等
250	下北③	重点校である田名部高校の学級数維持に固執する理由が分からない。地区全体の教育活動への影響について、説明がないことに不満を感じる。下北地域の実情を配慮するのであれば、田名部高校だけを「特別扱い」するのではなく、大湊高校とむつ工業高校を含めて、学級数の減少を総合的に考えるべき。個人的な案は、田名部高校1学級減、大湊高校1学級減、むつ工業高校増減なしである。大湊高校とむつ工業高校の統合案には絶対に反対である。
251	下北③	むつ市には3校しか高校がないため、これを更に2校に減らすと子どもたちの選択肢が減ってしまう。下北地区は他地区と状況が異なっている中で、他地区と同様に統合を進めても良いのか不安に思っている。
252	下北③	むつ工業高校と大湊高校を統合することによって、工業科が2学級、総合学科が3学級となり、小規模校を寄せ集めただけの統合校となることを危惧している。
253	下北③	下北地区統合校について、学科の併設により期待される効果の例として学科間の連携を挙げているが、そのような曖昧な示し方ではなく、お互いの授業を学ぶ具体的な方針が示されるべき。
254	下北③	県教育委員会が示している学科の枠を越えた科目の履修は、弘前実業高校に導入されている総合選択制で行われるものであると思う。そのため、下北地区統合校において学科の枠を超えた科目の履修を行うのであれば、計画(案)の総合選択制の対象に下北地区統合校も加えるべき。
255	下北③	高校の小規模化による悪影響を考えると、大湊高校とむつ工業高校の統合に賛成である。統合に当たっては、総合学科と工業科間の授業の乗り入れが可能となるよう十分検討し、評価されるような素晴らしい高校を作してほしい。
256	下北③	工業科が2学科となるのは県内で下北地区統合校のみであり、これまでどおり資格取得ができるかどうか分からない。
257	下北③	大湊高校の総合学科は何をやっているかわからないし、中途半端なので本当にやめてほしい。むつ工業高校は特色があるのに、中途半端な大湊高校と統合したら特色が薄まる。むつ工業高校と大湊高校の統合は現在の案だと絶対に「魅力ある高校」にはできない。県教育委員会は「魅力ある高校」や「キャリア教育の充実」を多用し説明しているが、説得力がない。大湊高校は系列維持なのにむつ工業高校が学科減となるのは納得がいかない。4学科でも人材が不足しており、2学級になるともっと人材不足となってしまう。
258	下北③	最終的な統合の方向性が決まった段階で、下北地区統合校に係る具体的な施設、教育課程等の要望を地域から聞く場面がほしい。
259	下北③	統合により、基盤である施設設備や教職員数が削られ、子どもたちの可能性が狭められることを危惧している。

No	区分	提出された意見等
260	下北③	<p>統合は大雑把に考えるとやむを得ない。人口減少はどうにもならない現実である。しかし、現状を考えると拙速すぎるように思う。選択肢が狭められることを考慮してほしいし、統合が押しつけにならないよう配慮してほしい。また、下北の高校だけではなく、八戸市や青森市の高校を受検している生徒もいるので、進路は自由に選ばせるべき。</p> <p>統合になれば、部活動の選択肢も広がるし、学校の維持管理費の節約が期待できる。5年後、10年後、30年後、子どもが少なくなるのが心配である。多様性を尊重し、しっかりとしたビジョンを示した取組を期待したい。</p>
261	下北③	<p>今後まだまだ子どもの数が少なくなる中で新設校の建設は無駄にならないか。10年後、20年後を見通してからでも良くないか。</p>
262	下北③	<p>統合するとしてもキャンパス制を取り入れたり、下北地区の各校の学級編制を35人にして統合を延長したりするなど考えてほしい。</p>
263	下北③	<p>なぜ大湊高校とむつ工業高校の統合案となったのか、具体的にまだよく分かっていない。子どもの数が減る中、このままで良いと思っている人はおらず、地域としてはメリットだけでなく、デメリットも含めて受け入れなければならないが、大湊高校とむつ工業高校の統合案のデメリットは資料には記載されていない。このことから、「大湊高校とむつ工業高校との統合のデメリット」を教えてください。また、「むつ市内3校の統合」について、進路選択の幅が極端に狭められるとは何を指しているのか教えてください。</p>

#### ウ その他

No	区分	提出された意見等
264	下北③	<p>下北地区の生徒の私立高校への進学者数が変わらないのはなぜか。県立高校に魅力がないからか。</p>



## 【青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画に係る要望書】

(令和3年9月17日付 むつ市長)

### 【要旨】

人口減少、少子高齢化が進む中で、県内各地域の衰退を防ぎ地方創生を実現するために現在策定中の青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画について、各地域の実情に応じた人財育成が可能となるよう、下北地区における大湊高等学校及びむつ工業高等学校の閉校並びに統合計画案の白紙撤回と地域住民の意見を十分に取入れた計画の策定を強く要望します。

### 【理由】

むつ・下北地域は、歯止めのかからない人口減少、地域経済の冷え込み等に長く苦しむ中、コロナ禍の追い打ちにより、崩壊の危機に瀕しています。このような状況下にあっても地域住民は、ふるさとを守り後世に脈々と引き継いでいくため、皆で知恵を絞り、身を粉にして活性化に取り組んでいます。

地域を守り、創るのは言うまでもなく「人」です。そして、地域の課題を把握し、解決に導くことができる人材を育てるのは「地域」です。

地域で人を育て、人の成長とともに地域も成長することこそが地方創生のあるべき姿であり、地域の宝である人づくりが持続可能なまちづくりの根幹を成すものであることから、当市では、高等教育機関を誘致し、令和2年度には地域初となる短期大学が開設され、また、令和4年4月には念願の4年制大学が開設されます。このキャンパスを学び・交流の拠点とし、地域人材の育成・定着、コミュニティの活性化、地域経済の拡大等に地域を挙げて取り組むこととしており、地域の中で小学校から大学までの学びを提供する環境が整うこととなりました。

このような中においても、子ども達の多くは高校在学中に将来の進路を決定することから、高校での「地域事情に即した学び」の提供が地域人材育成のために非常に効果的であり、各地域に設置されている県立高等学校は、その核となる学び舎として、地域にとって欠くことのできない教育機関です。

今般、県教育委員会が示した計画案は、生徒数減少の推計に伴い単なる数合わせとして高校を統合する計画であり、将来ビジョンのないこの計画では、地域の未来を創ることはできません。

また、7月、8月に県教育委員会が各地区で開催した懇談会において参加者から反対意見が噴出したことから、地域住民の理解を得られていないことも明白であり、地域ぐるみで特色を生かした高校をつくることなど雲をつかむような話です。そうなれば、害を被るのは「将来を担う子どもたち」に他なりません。

このことから、下北地区における現計画案は子どもたち、そして地域に悪影響を及ぼすものでしかなく、市として到底、容認することはできず、ここに白紙撤回を要望します。

また、計画の策定に当たっては、人口減少の荒波に巻かれ、漫然と高校統合や学級減の計画案を提示し、その結果ありきで地域住民を誘導するのではなく、住民、地域と真摯に向き合い、寄り添った計画を策定するため、今一度、地域の住民、行政、議会、関係団体等との意見交換や議論を重ねる原点に立ち返りながら策定プロセスの透明性を確保するとともに、幅広い高校で地域特性を活かした学科を設置し全国募集をすることで統合や学級減を回避しながら学校、地域の存続に挑戦することができるような計画とするなど、白紙状態からの再検討を強く要望します。

## 【青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画に係る要望書】

(令和3年9月17日付 東通村長)

### 【要旨】

人口減少、少子高齢化が進む中で、県内各地域の衰退を防ぎ地方創生を実現するために現在策定中の青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画について、各地域の実情に応じた人財育成が可能となるよう、下北地区における大湊高等学校及びむつ工業高等学校の閉校並びに統合計画案の白紙撤回と地域住民の意見を十分に取り入れた計画の策定を強く要望します。

### 【理由】

むつ・下北地域は、歯止めのかからない人口減少、地域経済の冷え込み等に長く苦しむ中、コロナ禍の追い打ちにより、崩壊の危機に瀕しています。このような状況下にあっても地域住民は、ふるさとを守り後世に脈々と引き継いでいくため、皆で知恵を絞り、身を粉にして活性化に取り組んでいます。

地域を守り、創るのは言うまでもなく「人」です。そして、地域の課題を把握し、解決に導くことができる人材を育てるのは「地域」です。

地域で人を育て、人の成長とともに地域も成長することこそが地方創生のあるべき姿であり、人材育成は地域の宝である子ども達が夢を抱き、育み、それを叶えるため、我々大人が地域全体で子ども達を全体で支えることです。

子ども達の多くは高校在学中に将来の進路を決定することから、高校での「地域事情に即した学び」の提供が地域人材育成のために非常に効果的であることは疑う予知もありません。当村においては、中学校卒業生の8割がむつ市内へ進学している現状の中で、各地域に設置されている県立高等学校は、その核となる学び舎として、地域にとって欠くことのできない教育機関です。

今般、県教育委員会が示した計画案は、生徒数減少の推計に伴い単なる数合わせとして高校を統合する計画であり、将来ビジョンのないこの計画では、地域の未来を創ることはできません。

また、7月、8月に県教育委員会が各地区で開催した懇談会において参加者から反対意見が噴出したことから、地域住民の理解を得られていないことも明白であり、地域ぐるみで特色を生かした高校をつくることなど雲をつかむような話です。そうなれば、害を被るのは「将来を担う子どもたち」に他なりません。

このことから、下北地区における現計画案は子どもたち、そして地域に悪影響を及ぼすものでしかなく、村として到底、容認することはできず、ここに白紙撤回を要望します。

また、計画の策定に当たっては、人口減少の荒波に巻かれ、漫然と高校統合や学級減の計画案を提示し、その結果ありきで地域住民を誘導するのではなく、住民、地域と真摯に向き合い、寄り添った計画を策定するため、今一度、地域の住民、行政、議会、関係団体等との意見交換や議論を重ねる原点に立ち返りながら策定プロセスの透明性を確保するとともに、幅広い高校で地域特性を活かした学科を設置し全国募集をすることで統合や学級減を回避しながら学校、地域の存続に挑戦することができるような計画とするなど、白紙状態からの再検討を強く要望します。

## 【青森県立大湊高等学校及び青森県立むつ工業高等学校を対象とした統合校案の再考を 求める要望書】

(令和3年9月17日付 むつ商工会議所会頭 外3名)

青森県教育委員会では、将来高等学校教育を受けることとなる子どもたちのための教育環境づくりに向け、令和5年度からの5年間における具体的な学科改編や学校規模・配置等を示す「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」を本年7月7日に公表しました。

本計画によると、下北地域における中学校卒業業者数の減少に伴い、地区の学校配置の状況や志願・入学状況、通学環境等を踏まえ、大湊高校とむつ工業高校を統合対象校として下北地区統合校とする計画であります。

計画発表を受け、2回の地区懇談会が開催され、教育関係者・住民に加え地元の経済関係者も多数参加し、意見を述べました。8月の懇談会の席上でのやり取りは、再編後における「学科およびカリキュラムの実現性」について明確な根拠はなく、高校勤務経験者からは工業高校での国家資格取得に向けた授業カリキュラムの確保において「むつ工業高校だけが県内工業高校の中でそれが担保できないことになる」との意見も述べられましたが、この発言に対して教育委員会からは明確なる回答はありませんでした。

むつ市においては、平成27年3月に田名部高校大畑校舎、令和3年3月には大湊高校川内校舎が廃校になった経緯もあり、今回の追い打ちをかけるような統合案については、経済関係者からは、地元「高校が一つ無くなること」について地域の事情を何一つ考慮した形跡がない計画案であったとの意見も述べられ、経済関係者を対象とした説明会の開催実施の要望等の意見が多数出されました。

高校の統廃合により地域経済がダメージを受けることは各種統計データから見ても明らかであり、全国においては「高校魅力化事業」など文科省の事業においても、関係自治体および経済界を巻き込んで「衰退する地域の歯止め案」として行政の縦割りを排し、工夫がみられています。しかし、地区懇談会における教育委員会の回答は、教育委員会の領域のみに限定され、経済的視点・地域振興の視点から目を逸らしたものと受け止めています。地域を構成するのはそこに暮らす住民であり、住民は地域で働き暮らしを守っています。その暮らしの根幹というべき「働き場所」である経済界からの意見聴取をせずに、計画案を絞ってきた姿勢は誠に遺憾であると言わざるを得ません。

すでに、むつ下北地域では「教育機会の拡充」は未来への投資であると考え、地域振興の柱にして走り出しており、経済界も「行政の公的支援」だけでなく、自助努力の中で真剣に取り組んでいます。このような地元の努力を調査・聴取もなく、いきなり「再編計画」を公表し、令和3年10月に「第2期実施計画」が策定されることになれば、これまでの地域住民すべてが「コツコツと積み上げてきた努力」を踏みじられたものと感じてしまいます。

今回提示された計画案は、むつ下北地域の「切り捨て」と感じられるとともに、私たちは、どの家庭の子供たちも平等に教育機会に恵まれるべきと思っています。「学校がある」という形ではなく、学校で学ぶ内容の質においても、地域間格差があってはならないし、地域に生活するすべての住民は、地域を愛し、これからもこの地域を子供たちの未来に繋げていく責任があります。

過去において下北半島に暮らす者たちは裕福ではなく、教育の機会に恵まれなかったことは事実でありました。そのことが、現代にまで繋がる所得格差、子供たちへの教育機会の格差を生んできたと言っても過言ではありません。私たちは、この「貧困の世代間連鎖」を断ち切り、未来を具体的に創り上げていく責任があります。

よって、青森県教育委員会が世代間倫理に欠けないならば、事業計画のスケジュールに拘ることなく、改めて経済界からの意見にも耳を傾け、地域住民の理解と協力をもって、地域合意を第一義として進められよう強く要望します。

### (6) 三八地区

#### ア 学校規模・配置

特になし

#### イ 統合に関する事項

特になし

#### ウ その他

特になし